

環研センターNEWS

令和8年
6月号

編集発行

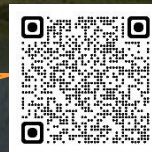
山形県環境科学研究所

〒995-0024 村山市楯岡笛田3丁目2番1号

TEL 0237-52-3124

FAX 0237-52-3135

山形県の
環境情報は
こちら！



お知らせ

環境科学体験デー開催します

○親子で楽しむ環境科学体験デー

毎年6月は「環境月間」です。この月間にあわせて、当センターを一般公開し、科学実験、リサイクル工作、自然観察などを通して、親子で楽しみながら環境について体験・学習する「親子で楽しむ環境科学体験デー」を開催しています。

今年度の開催日程は次のとおりです。

6月13日(土)「自然観察会」

6月27日(土)「センター 一般公開」

自然観察会では、「森の仲間たち」代表の白壁洋子先生と一緒に堂ノ前公園探検ツアーを行います。見て、聴いて、触れて、匂いを嗅いで、木の実を食べて、五感をフル活用しながら自然を観察します。

6月27日(土)には当センターを一般公開し、「親子で楽しむ環境科学体験デー」を開催します。人気のスライム作りのほか、バスボム作り、ペットボトルロケット、超低温の世界など様々な催しがあり、申込不要で誰でも参加可能ですので、興味のある方はこの機会にどうぞ参加ください。



コラム

外来植物 ～セイタカアワダチソウの巻～

セイタカアワダチソウは元は鑑賞用として輸入された植物ですが、今や空き地、河川敷、道路沿い、造成地、休耕地など、日当たりのよい場所ならどこにでも見られる、侵略的外来種の代表例です。一旦根付くと地下茎を伸ばしてテリトリーを広げ、根から出す阻害物質で他の植物を抑圧し、いつの間にか周辺一帯を占拠しています。花粉症

の原因との疑惑もありましたが、実はブタクサ等の他の外来植物の影響が大きいようです。駆除するには、種子をつける前に、地下茎を残さず抜き取ることが重要です。除草剤や防草シートの併用もいいかもしれません。



各部
紹介

環境企画部

環境企画部は「環境学習の支援」「自然環境調査」「気候変動適応センターの運営」などの仕事をしています。

「環境学習の支援」では、環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員の派遣、環境教室（出前講座）の実施、環境に関する情報発信などを行っています。

環境教室（出前講座）は、希望者にセンターに来てもらうか、職員が小中学校や公民館などへ出向いて環境学習を行います。テーマは地球温暖化や海洋プラスチックごみ、再生可能エネルギーなど環境に関わる幅広い内容です。

6月～10月中旬には水生生物調査も行っています。川にすむ生きものを調査することで、その川のきれいさがわかります。参加申込後に各自実施し、結果を報告します。職員が出向いてお手伝いすることもできます。

情報発信では、環境に関する普及啓発のため、

広報誌「環研センターNEWS」や年報の作成、WebサイトやSNS等の広報活動を行っています。

「自然環境調査」では、絶滅危惧種の生物の分布・生息調査、保全活動への支援、ナラ類の豊凶調査、獣害調査を行っています。

「気候変動適応センターの運営」では、気候変動の緩和・適応策に関する情報収集、情報発信を行っています。

▼ 環境教室の申込はこちら ▼

環境教室

水生生物調査



山形県のホームページへつながります

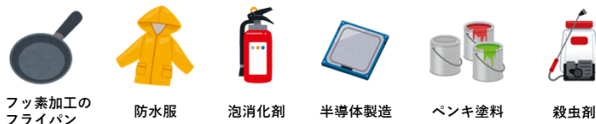
ほっと
NEWS

有機フッ素化合物（PFAS）の調査をしています

○有機フッ素化合物（PFAS）とは

PFAS（ピーファス）とは、主に炭素とフッ素からなる化学物質の総称で、その優れた化学的性質（撥水性・耐熱性・耐薬品性）により、工業製品から日用品に至るまで広く利用されています。

PFASが使用された製品の一例



一方、PFASの中でも、PFOS（ピーフォス）及びPFOA（ピーフォア）と呼ばれる物質は、環境や人の健康への影響が懸念されることから、現在、日本を含む多くの国で製造や輸入などが禁止されています。しかし、分解されにくいいため、過去に使われたものが今でも環境中に残り続けており、日本各地の河川水や地下水から検出されています。

○PFOS及びPFOAの存在状況調査

当センターでは、県内の水環境中にPFOS及びPFOAがどのくらい存在するか確認するため、令和3年度から、県内各地の河川水や地下水のPFOS、PFOA濃度を調査しています。

令和7年度は県内10の河川と5市町村の地下水について調査を行った結果、すべての地点で国の指針値を大幅に下回りました。令和8年度はさらに強化して調査と監視を継続していきます。



事業
報告

公共用水域水質測定業務における精度管理

○公共用水域の水質測定

県では、県内の河川や海、湖沼（これらを総称して公共用水域といいます）の水質について、測定計画を策定し、定期的に測定を行い、環境基準が満たされているか監視を行っています。

○水質測定の信頼性の確保（精度管理）

公共用水域の水質測定においては、その結果が人々の健康や安全に関わるものであることから、測定結果の信頼性の確保が極めて重要となります。測定や分析が常に正確で信頼できる結果を出すために行う取り組みのことを精度管理といいます。

山形県では水質測定は民間の事業者に委託して行っています。受託した事業者が適切に測定を行えるように、環境科学研究センターが毎年度当初に分析施設や測定の状況を確認し、精度管理について確認・助言を行っています。



○精度管理の実施状況

令和8年4月に受託事業者の分析施設3か所で、施設や測定の状況を確認し、分析精度の向上について助言を行いました。

県では、毎年このような公共用水域水質測定業務における精度管理を行って、測定結果の信頼性を確保しています。

連載
コラム

「タイッキー」と「スイッタン」の環境会話

○虫は無視できない存在

スイッタン：数日前のことだけど、タイッキーがPM2.5(※)の 대기自動測定機の前で何かしている姿を見たよ。いったい何をしたの？

タイッキー：あれ、見られちゃったか…。

スイッタン：その表情は、もしや何か見られちゃまずいことしてたんじゃないよね。

タイッキー：そんなことないよ。その日はPM2.5の数値がとても高くなったから原因を調べてたんだよ。PM2.5は掃除機で有名なサイクロンで空気から分離して、その重さを「β線吸収法」っていう方法で測定するんだけど、その計測部分に虫が混入しちゃったみたいだね。

スイッタン：へえー、そうなんだ。

それが原因で高くなったの？



PM2.5測定局舎

※ PM2.5：微小粒子状物質（粒径2.5μm以下の粒子）

タイッキー：そうなんだ。虫だから無視、ってわけにはいかないんだよ。測定は信頼できる数値であることが大事だからね。

スイッタン：そうだよね。

タイッキー：大気常時監視用の測定機は常に稼働しているから、点検や消耗品の交換も必要だし、経年劣化する前に更新することも大切なんだよ。

スイッタン：そこまでしっかり見てPM2.5測定機いるんだね。私もタイッキーの行動は見逃さず、無心で監視さんなねなあ。

タイッキー：え、なにその言い方！？

スイッタン：だって虫好きとしては、虫の動きは無視できないし、どんな虫か気になる〜♪。だから次は私が先に虫を見つける〜。

タイッキー：きちんと混入防止対策したけど、その頼もしい姿なら虫も逃げて大丈夫そうだ…。



所長
あいさつ

山形県環境科学研究センター所長 後藤忠史

今年の4月から所長を務めることになりました。当センターには15年ぶり、2回目の勤務となります。以前は、水環境部と環境企画部に在籍し、水質調査や環境教育等に携わりました。建物自体は変わらず、懐かしく感じたところです。以前は夕方近くになると、環境情報、自然環境棟に近隣の子どもたちが集まりにぎやかでしたが、最近は訪れる子供たちも減り、ちょっと寂しく思います。

さて当センター内にある「山形県気候変動適応センター」は、気候変動の影響や適応に関する情報収集、整理、分析を行い、県民の皆様が気候変動の適応を進めるためのサポートを行っています。

今冬（2025～2026）の降雪量は平年並みだったようですが、平均気温が平年より高めに推移し、積雪量としては少なくなったようです。確かに、自分が子供の頃に比べれば、ずいぶん積雪が少なくなったような気がします。また、桜の開花も早くなり、当センターで山形新聞の地域欄に掲載さ

れている県内各地の桜の開花状況を長年にわたって調べたところ、桜（ソメイヨシノ）の開花日は、地域により差はありますが、ここ50年で5～11日ほど早くなっていることが感覚ではなくデータとして確認されています。



山形県としても令和2年に「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言し、地球温暖化防止に向け計画的に取り組んでいるところですが、併せて気候変動適応についても取り組んでいく必要があります。それら取り組みのベースとなる情報の収集と発信に努めてまいりますので、当センターを気軽にご利用ください。

【参考】山形県におけるサクラの気候変動影響
https://www.pref.yamagata.jp/053001/kurashi/kankyo/ondanka/tekiou_center/info/sakura.html

お知らせ

クーリングシェルターと給水スポット

昨年に引き続き、当センターは危険な暑さから避難できる場所「クーリングシェルター」として指定されています。環境情報・自然環境棟を次のとおり開放しておりますので、ご活用ください。

利用可能日：月曜から金曜日（開館日）

利用時間：9時から17時

受入可能人数：10人

また、環境情報・自然環境棟にはマイボトル用給水器が設置されています。誰でも無料で利用できますので、ぜひマイボトルを持って涼しい場所での休憩・水分補給にご活用ください。



編集後記

今年度から環研ニュースの編集担当となりました。興味のわく紙面作りを目指していきたいと思っています。よろしくお付き合い願います。

さて、最近のお悩みと言えはやはり「暑さ」。今年は5月中旬に山形市で最高気温30℃以上の真夏日が4日、さらに33℃以上の日が連続2日観測されました。5月に33℃以上を2回記録したのは観測史上初めてだそうです。四季がなくなり二季の時代になっていくという説に説得力が感じられてきます。

真に怖いのは、こういう状態が当たり前化して疑問も感じなくなる、つまり常識がズれてくることです。世情を見ても、以前は考えられなかった事件が普通に起こっている状況は、別の意味で頭が痛くなってきます。

